児童に見られるつまずき

　被乗数と乗数の関係を理解することができない

つまずき解消に向けた指導のポイント

　かけられる数とかける数の関係をイメージしながら、問題場面を数図ブロックを操作したり図に表したりする活動を通して、「○の△つ分」を意識しながら立式できるようにする。

指導事例集ｐ．９３

１　学年・単元名　　第２学年　式の読み取り（かけ算）（数量関係領域）

２　単元目標

かけ算の意味を理解し、「基準量のいくつ分」「基準量の何倍」と考えることができる。

３　単元の内容

・かけ算の意味や式のよみ方、かき方

・足し算を活用したかけ算の答えの求め方

**・倍の意味**

・かけ算の九九

４　本時の目標

・かけ算の意味に基づいて、立式の根拠を説明することができる。

・基準量が後に示された場合でも、正しく立式し、答えを求めることができる。

参考：板書

５　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 児童の活動 | 指導上の留意点  **太字：つまずきに対する手立て** |
| 導入  展開  まとめ | １　問題を知る。  おかしのはこが５つあります。１つのはこには、おかしが３こずつ入っています。みんなで何こになりますか。  参考：写真①  ２　めあてを立てる。  ５×３なのか、３×５なのか、どちらでもいいのかな？  ・順番通りにする。  ・図にかく。  ・ぎゃくにして考える。  ３　自分で考える。  　　図にかいて答えを確かめる。  参考：ノート①、写真②  ４　みんなで考える。  参考：写真③④  参考：写真⑤⑥⑦  ５　まとめる。  ・お話が逆になっているときも、  図等と関連付けて、関係を見つけるようにする。  参考：ノート②  ６　活用題を解く。 | ・問題文を読ませ、どんな式になるかをノートに書かせ、発表させる。  ・子ども達から５×３、３×５の２つの式が出ると予想される。３×５か、５×３か、どちらの式を考えたのか問うことで、児童の立場をはっきりさせる。  ・どのようにすれば、問題が解決できそうか問うことで、見通しを持たせる。  **・５×３、３×５の場合の図をかいて説明させることで、基準量を見つけやすくする。**  **・（基準量が前に書かれている）既習の問題文との違いを考えさせる。**  **・本時の問題文を既習の問題文に並べ替えをすることで、本時の問題文は基準量が後にくる問題文であることに気づかせる。**  **・形式的に問題文の構成を教えるのではなく、図、ことばの式、式を関連付けて考えさせ、問題文中の「１あたり」「いくつ分」「全体」を構造的に捉えられるようにする。**  ・学びを生かして、適用題に取り組ませる。 |